



つくほ治療院新聞

通巻77号



「お陰様で9周年」

いつも当院に御来院頂きありがとうございます。
当院で行う経絡治療に御理解頂く皆様のお陰で、無事9周年を迎える事ができました。紙面をおかりして御礼申し上げます。

私は、この経絡治療こそが鍼灸治療における東洋医学の真髄と信じて止みませんが、世の中的には、腰痛肩凝りなどの痛み止めこそが鍼灸治療と思われる方が大勢います。私も鍼灸学校を卒業するまで、同様に思っていた位ですから、一般の方が知り得ないのもやむを得ないのかもしれないません。

しかし、東洋医学は特定の部位や疾患だけに目を向けて、痛みを抑えたり数値を下げるだけの対症療法ではなく、人全体とした視点・観点で身体を診て、個々人に合った総合的な疾病予防や診断・治療を行う『全人的医療』を目指しているのです。そこに、鍼灸治療を受けたくない一番の理由の「痛い、痛そう」を排除した接触鍼法という手技を用いたのが当院の治療法になります。

中には、ブスブス鍼を刺して欲しい方や、アチチチと声を上げる程の熱い灸を望まれる方もいらっしゃると思いますが、このような強く攻撃的な治療法は、どこでも行っておりませんので、当院では、強く攻撃的な治療では身体が参ってしまう方々を一人でも多く治療出来るよう心がけてやってきました。このような治療方針を御理解して頂いた多くの患者さんのお陰で、9周年を迎える事が出来ました。そして、この度、万博記念公園駅近くに転移する事も決まりました。

この筑穂の地が通い易く御来院頂いていた方々には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、院内環境というハード面を充実させ、今迄以上のものを御提供できると思いますので、今後とも御愛顧の程、宜しくお願ひ致します。



二十四節気と七十二候

(「くらしのこよみ」より)

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

そのよりどころとなったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

また、二十四節気の一つ一つをさらに三分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前がつけられています。

二十四節気

小満

(五月二十一日)

日ごとに上昇する気温に合わせ、万物の成長著しい時期です。畑の麦は大きく穂を実らせ、草木の緑はくっきりと色濃くなってきました。あらゆる生命が天地に満ち始める、という意味の言葉です。

5月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

ゴールデンウィーク中は、暦通り日曜・祝日がお休みとなります。

第二十二候 蚕起食桑(かいこおきてくわをはむ)

(五月二十一日～二十五日)

蛾の一種である蚕蛾は、その繭から絹糸をとるために、古来、中国や日本で飼育されてきました。人々の暮らしを支える大変重要な生き物です。から「おかこいさま」などと敬称をつけて呼ぶ地方もありました。孵化した蚕蛾は、桑の葉を盛んに食べて成長し、ひと月ほど後には白い糸を体の周りに吐き出しながら繭を作ります。

季節のたのしみ 卯の花腐し(うのはななくたし)

五月は五月晴れというイメージが強いのですが、実は雨も多い月です。月の後半は、梅雨前線が一時的に北上し、本州付近で停滞するため全国的に雨がちな天気となります。昔の人々はこの時期のこうした気候を「卯の花腐し」といいました。旧暦四月(卯の月)に降る雨は、満開の卯の花を腐らせるというのです。





《そうだったのか東洋医学!!》

経絡治療

鍼灸治療というとイコール東洋医学と思われる方も多々いらっしゃると思いますが、肩が凝ったから肩に、腰が痛いから腰に、といった部分だけに西洋医学と同じ刺激理論でハリをする刺激バリの治療法が今の世では多く占めています。対して、古典を基礎とし気のアンバランスを整える事で生命力を強化し自然治癒力を高め病苦を除去する治療法を『経絡治療』と呼びます。同じ鍼という道具を用いても全く概念が違います。

元来、鍼灸治療とは、気を重んじて行われてきたのですが、1973年の中国で鍼麻酔の治療が注目を浴び、鍼刺激には鎮痛効果があると広まり、鍼治療は痛みを止めるために行うものとなってしまいました。その結果、健康な身体を手に入れるより「明日投げられる身体、明日走れる身体」が必要なスポーツ選手が取り入れるようになり、日本でも広まってきました。ですから、30歳にもなればアス

リートの身体はボロボロになり、引退していきます。それでも一千万、一億円と稼ぐアスリートならやむを得ませんが、健康のために運動している方は、まず健康な身体に戻す事が先決かもしれません。そこで、鍼灸治療と一言で言ってしまうと誤解が生じるため、古来より行われてきた治療法と区別するために、身体の隅々まで気が流れるルートである経脈と絡脈を合わせて『経絡治療』と名付けられました。

この『経絡治療』の特徴は、特定の部位だけを治療するのではなく、経絡を流れる気の過不足を調整し、気という生命エネルギーを全身に行き渡らせ、自然治癒力を高めて病苦を除去していきます。また、人には生まれ持った体質があり、症状が出ていないまでも経絡のアンバランスは生じますので、症状が出る前に治療を行う「未病を治す」事が出来るのです。



『お互いの良いところを見つける』

夫が頼りなく見えることもあるでしょう。妻が魅力なく映ることもあるでしょう。しかし、本当は違うのではないのでしょうか。氣にかけて夫の長所を見、妻の美点を見ていないのではないのでしょうか。もし、そうであるとすれば、その妻も、その夫も、大きな損をしていることになりそうです。よく注意して、互いの良いところを発見し合ってみてはいかがでしょうか。

「あつ、夫はこんな素晴らしいものを持っている」「あつ、妻はこんなにステキなところがある」と、互いの良いところを見つけることが出来たら、どんなに心楽しくなることでしょう。そこをジョツと見続けることができる夫婦は、末永く幸せであり続けることでしょう。

「一日一話」より

旬のくだもの

メロン

アフリカ原産とされるウリ科の植物。いくつかの種類がありますが、とりわけ芳香が強いものは麝香(Musk)にちなんでマスクメロンと総称されます。日本には明治期に入ってからでしたが、低温多湿に弱く露地栽培が困難なため、温室で手をかけて栽培されたので、高価な果物の代名詞になってしまいました。後には露地メロンの栽培も普及し、1963年に真桑瓜との交配によりプリンスメロンが作りだされたのはその代表例です。

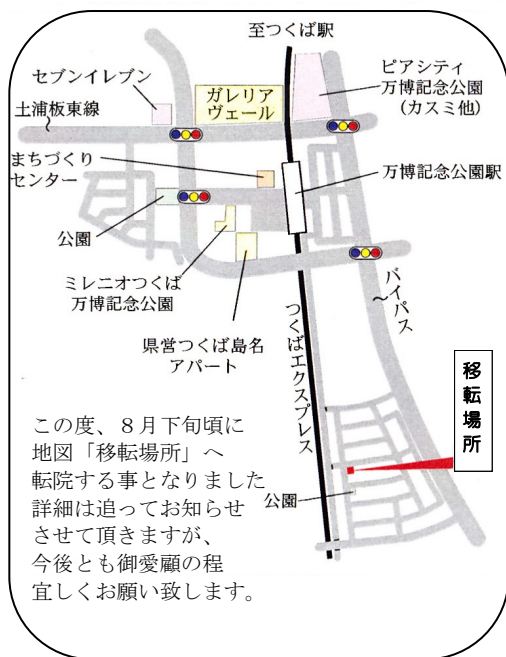


執筆余話

「目に青葉 山ほととぎす 初鰯」今年の4月は、菜の花の時期に雨の多い菜種梅雨になってしまいました。スツキリしない天気が続きましたが、そのお陰か、大地にはたっぷりの水分が降り注ぎ、鮮やかな新芽を目にする季節になりました。私はこの初夏の陽気が一番好きな季節です。そんな折、移転の知らせに喜んで頂けた方、困ってしまった方、様々あるかと思いますが、私の身体が動く限り、命の続く限り、一生経絡治療家として続けていきたいという決意でもありますので、何卒御理解と御協力を頂き、今後とも御愛顧頂けたら幸いです。



お知らせ



この度、8月下旬頃に地図「移転場所」へ転院する事となりました。詳細は追ってお知らせさせていただきますが、今後とも御愛顧の程宜しくお願い致します。